

井田川元気プロジェクト

(地域づくりのキャッチフレーズ)

「元気で輝く井田川」をつくる

(4つの基本的方向性)

自然と歴史を大切にすまち

地域のきずなを育むまち

誰もが愛着を持てるまち

安心安全に暮らせるまち



地域づくりについての想い

2020年度 第1回目の「井田川地区地域計画」を策定してから、4年が経ち、今回2回目の地域計画の策定となりました。

第1回目の計画策定時から、感染症の蔓延(コロナ禍)による行動自粛制限があり、計画内容の縮小 中止を余儀なくされてきました。

しかしながら小さくても自分たちでできる事を、方法を相談し、考え、活動を止めることなく継続できた事は、この委員会のメンバー、井田川地区の皆様のご理解とご協力の賜物と感謝を申し上げます。

昨年度はようやく行動制限の解除となり、大きな課題でありました「井田川フェスティバル」を皆様のご協力を得て実施出来ました事は、マイタウン井田川まちづくり委員会が有機的、能動的に行動できる素晴らしい組織である事を実証出来たと思います。

今回これから4年間の井田川地区地域計画“井田川元気プロジェクト”を策定しました。基本は今までの計画の延長であり、継続です。

有機的、能動的な組織力をより強く生かし、冒頭に掲げた「元気で輝く井田川」を実現するために、(4つの基本方針)の実践に取り組んでまいります。

マイタウン井田川まちづくり委員会

委員長 磯部 剛郎

1. 地域づくりの基本目標

「元気で輝く井田川」をつくる

◇農業振興部の目標◇

農業振興の活動で地域のつながりを育む

◇地域安全部の目標◇

安全・安心できれいなまちづくりをめざす

◇福祉部の目標◇

笑顔と健康ですごせる福祉の町 井田川を

◇青少年育成部の目標◇

つどう ふれあう たすけあう

◇体育振興部の目標◇

スポーツを通して住民同士の交流を深め、心も体も元気なまちづくり

◇文化広報部の目標◇

持続性のあるまちづくりをめざす

◇自治会連合部の目標◇

いざという時効果を発揮する防災対策をめざす

◇すまいるサポート部

支え合い活動で地域の輪を繋ぐ

2. 井田川地区の姿（地域カルテやアンケートから抜粋する）

（1）地区のなりたちと人口



◇世帯数

831 世帯

◇人口

2096 人

令和5年1月調べ

【地区旗】意味

意匠〔四つ葉のクローバー〕

農業地帯をあらわすのに緑濃いクローバーを四つ葉に配置して、井田川の井桁に組んで四地区の親和をあらわした。

地色は「きいろ」。黄金の稲田を想起した。

○井田川地区【住民基本台帳及び全国小地域別将来人口推計システム】



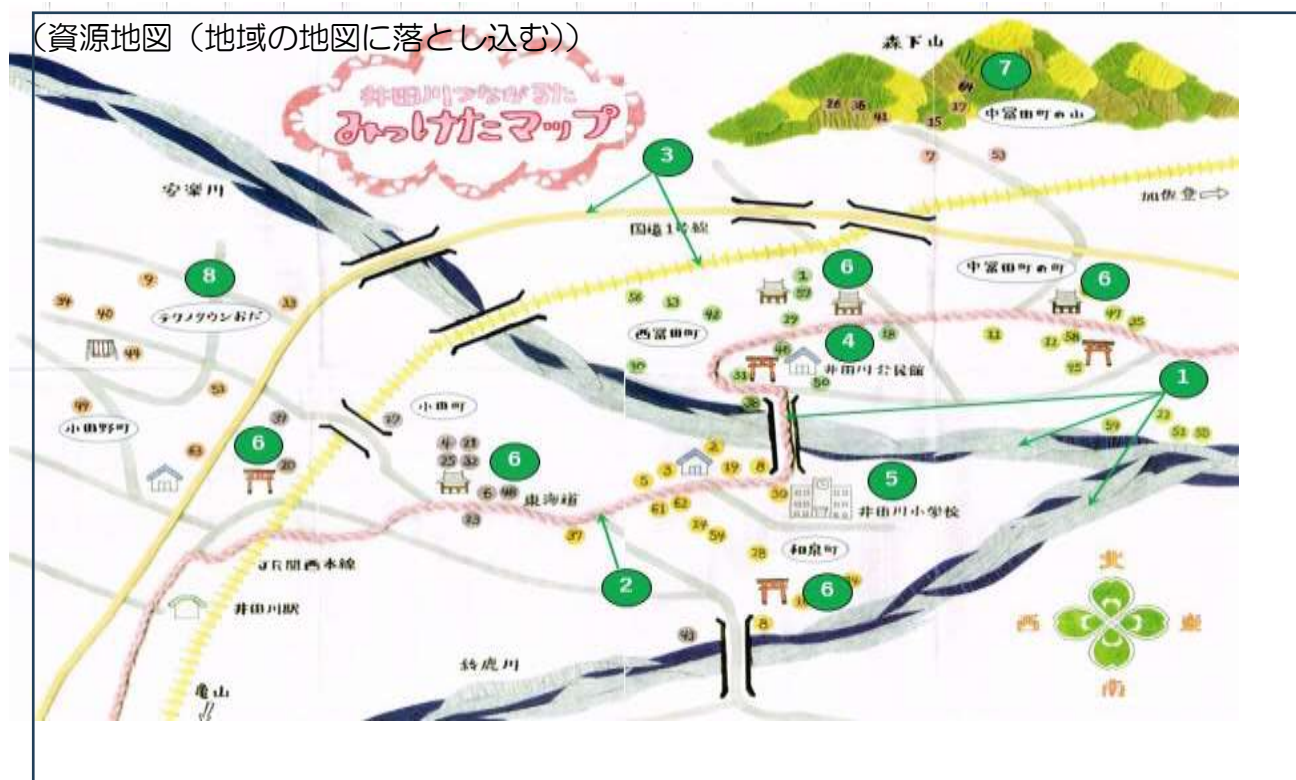
※ 令和2年までは住民基本台帳による

※ 令和12年からは全国小地域別人口推計システム(作成者 青山学院大学 井上孝氏)

URL <http://arcg.is/1LqC6qN>

(2) 地域の主な資源

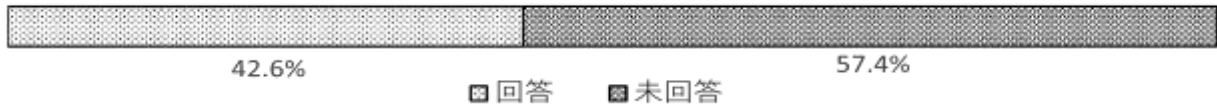
(資源地図 (地域の地図に落とし込む))



名称	内 容
① 鈴鹿川・安楽川・和泉橋	一級河川の合流箇所、伏流水のめぐみ
② 東海道	ウォーキングされる方が多い
③ 国道 1 号線、JR 関西線	古くからの交通の要所
④ 井田川公民館	まちづくり委員会の活動拠点、災害避難所、文化センター
⑤ 井田川小学校	地域と共に子供を育てる
⑥ 街道沿いの神社 仏閣	東海道と共に発達した地域住民の心の支え
⑦ 森下山の古墳群	古くからの定住地であった事を伝える遺跡
⑧ テクノタウン	市街化区域、現代的建物はモダン

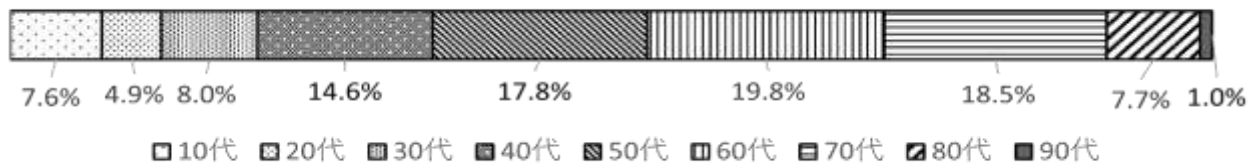
(3) 住民の意識 (井田川地区7自治会住民を対象とし、令和5年8月に自治会を通じて配布・回収したアンケート結果から抜粋)

アンケート回答率



アンケート提出者数 891 名 (最大回答者数)	=	42.6%
住民数 2,090 名 (2022 年 9 月末現在)		

世代別回答状況



◇若年層(10~20代)からの回答が少なかった。原因は活動状況のPR不足と、若年層を対象とした事業が少ないことが原因と考えられる。
現役世代(30~60代)及び高齢者世代からは多様な意見が寄せられている。

「井田川地区に住んで良かった」と感じていますか？



◇テクノタウン(振興住宅地)以外の居住者の方は、年齢層が高くこの地に長年住まわれているため、地域への愛着をもっておられる方が多いと推察される。

反面新しく居住された方たちは、生活の不便さ(買物、交通の便、病院、教育施設が整っていない)を感じている。

◇地域住民間の交流については、概ね良好との意見であった。

「安心・安全に暮らせるまち」だと思いますか？



- ① 小学校児童の登下校時の見守り、青パトによるパトロール活動に対し、多くの方から高評価を頂いた。
- ② 約半数の方が犯罪 事件 事故が無く、安心な地域と認識している。
一方、空き巣 遭難 不審者 に対する懸念も、半数近い方が持たれている。
- ③ 町内、団地内の細い道路でのスピードの速い車、交差点で一旦停止しない車等、交通マナーの悪さについての意見がある。

「災害に対する備えが充実したまち」だと思いますか？



- ① 意見で一番多かったのは、避難所に関するものであり、避難場所が不適切、避難場所を知らない、収容能力が不足等の疑問が多かった。
- ② 備蓄品の量、内容について不満を持たれている方が多かった。
- ③ 地域の特性として、水害に対する認識が強い。
- ④ 防災組織やシステムがどの様になっているのか、適切に機能するのか等、災害時の対応に疑問を感じている。
- ⑤ 防災マニュアルの完備、防災訓練が行われている等、防災活動に対する良い評価もある。

「地域活動が活発なまち」だと思いますか？



- ① 住民の意識としては、活動に否定的な意見が多かった。
 - (1) どの様な活動をしているか、知らない。
 - (2) 活動が高齢者、小学生と幼児に偏っている。
 - (3) 若者が参加したくなる様な企画が少ない。
 - (4) 活動のマンネリ化、役職スタッフの負担意識が強い。
 - (5) 活動の減少と参加者の広がりが無い(いつもと同じ人が参加)。
 - (6) 参加したくない、イベントもほどほどで良いとの意見も散見された。
- ② 肯定的意見としては、イベント回数も多く活発であるとの評価もされている。

「近所付き合いが良く、地域のきずながあるまち」だと思いますか？



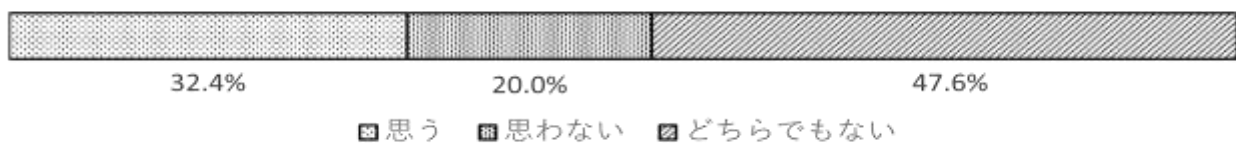
- ① 近所付き合い、挨拶については、3割弱の方がされていると回答された。
 - (1) 昔からの付き合い、習慣としている。
 - (2) 地域のイベント、行事を通じた付き合い、ボランティア活動を行っている方への感謝から絆を感じている。
- ② 住民感情としては、煩わしさ、人付き合いが苦手、付き合いに抵抗を感じている。
 - (1) 自身の周りを見ても付き合いの状況が感じられない。
 - (2) 近所にどの様な方が住んでいるのか知らない
 - (3) 生活への干渉をされたくない等の意見があった。

「高齢者が安心して暮らせるまち」だと思いますか？



- ① 半数の方が、生活環境(店舗、病院が遠い)を含めた交通の不便さに不安や不満を感じている。
- ② 今は良いが高齢化し、車に乗れなくなると生活しづらいと、不安を感じている
- ③ 2割程の人が、民生委員、地域活動、近所同士の交流で安心を感じている。
- ④ 静かで安全、住みやすいとの意見もあった。

「子育て(教育・保育)がしやすいまち」だと思いますか？



- ① 学校が遠い、幼稚園、保育所が無い、習い事をする所が無い等、教育設備の不足に関する意見が多く見られた。
- ② 小学児童の登下校時の見守り、青パトによるパトロール活動に対し、多くの方から高評価を頂いた。
- ③ 少子化への意見が多くある。
 - (1) 少人数のため、教育指導が充実する。
 - (2) 少人数のため、学年を超えて子供たちの交流が出来ている。
 - (3) 今後、小学校の廃校など、更に教育環境悪化の懸念を感じている。

「自然や環境が保たれているまち」だと思いますか？



- ① 相対的に自然環境は、良好と感じている方が多い。
 - (1) 緑が多い、鳥や昆虫、樹木に接して自然が豊かだと感じている。
 - (2) 地域活動で環境維持に努めている。
- ② 反面以下の意見があった。
 - (1) 高齢化、農業従事者の減少により田や畑が荒れてくる。
 - (2) ゴミを道路や河川に捨てる人がいる。
 - (3) 雑草が放置されている。

(4) 部会別方針と主な取組み

農業振興の活動で地域のつながりを育みます	
部会	農業振興 部
内容	農業を通じた学童の育成に貢献する 農業の楽しさを多くの人に知ってもらう 地域間の親睦を深める

安全・安心できれいなまちづくりをめざします	
部会	地域安全 部
内容	現在の子どもの登下校時の見守り、青パトの運行に加え「町内徐行」「スピード落とせ」等の安全な速度での通行PRと通学路の「ゴミゼロ運動」を実施し、安全・安心できれいなまちづくりをめざします。 また、自治会連合部と連携して防災訓練、避難所運営訓練を実施し、防災に対する意識の向上を図ります。

この町に笑顔を広げ何年先までも住みたい町をめざします

部会	福祉 部
内容	慣れ親しんだ井田川で安心・安全に過ごせる町 福祉を通じて、住民同士がお互いに見守りが出来る 町づくりをめざします

井田川フェスティバルを通じて地域の活性化をめざします

部会	青少年育成 部
内容	実行委員会を見直し、地域連携を図りながら「中・高生」を巻き込んだフェスティバルを新しい伝統行事として継続していくことをめざします。また、従来の行事の充実を図ります。

住民同士の交流と健康促進をめざします

部会	体育振興 部
内容	これまでの活動実績及び住民アンケート結果より現状を把握し、幅広い世代が参加できるような行事企画・地域交流の活性化をめざします。 多くの住民の方に参加頂ける様に、募集方法の見直しを含め、種目の多様化について取組んでいきます。

持続性のあるまちづくりをめざします	
部会	文化広報 部
内容	<p>1. 歴史、伝統、文化のあるまち 井田川地区旧跡と文化の魅力発信</p> <p>2. 自然と環境の郷土色豊かなまちづくり 住みやすい環境づくり</p> <p>3. 「井田川つながるた」を活用した情報発信 かるたの存在と内容を地域内外に広めていく 各部会と調整しながら、方針と解決策を検討し広報紙を利用して井田川地区の魅力を発信します。</p>

いざという時に効果を発揮する防災体制づくりをめざします	
部会	自治会連合 部
内容	<p>地域の現状を調査した防災マップを作成し、それに基づいた防災訓練と防災体制づくりに取り組みます。</p> <p>1. 防災マップの充実を図る</p> <p>2. 防災訓練の実施</p> <p>3. 防災体制づくり（活性化）</p>

支え合い活動で地域の輪を繋ぐ をめざします

部会	すまいるサポート 部
内容	一人暮らし高齢者、高齢者世帯、一人親世帯へのチョットした生活支援 地域公共施設の草刈り 学校・学童施設のグラウンドの草刈り支援

～井田川小学校「井田川の未来を考える」ワークショップ～

令和 5年 12月 20日 (水) 4・5・6年生

◆4・5・6年生が、8つの班に分かれ、井田川の「良いところ」、「良くないところ」をいっぱい出し、いくつかある「良くないところ」の内一つを選び、「良くないところ」を「良い」にする為にどうすれば良いか、原因と対策法を考え、キャッチコピーにまとめて発表した。



選んだ良くないところ
対策



ごみをなくすために
ポスターをはる
放送でよびかける
気がついた人がひろう
かえるときにごみがおちていないか見る
ごみぶくろをもっていく
ゴミは、ゴミ箱に捨てよう
かえるときにごみがおちていないか見て、あったら捨てる
ごみは気づいた人が、捨てる

キャッチコピー

選んだ良くないところ
対策



遊具が少ない、壊れている
ゆうぐをきずつけない
校長先生にいう
正しい遊び方をする
ブランコだったら立ちこぎしない
あぶないことをしていたら、注意する
あぶないことをしない
ゆうぐを大切に
ぜん校で、やすみ時間で直す
学校のお金でゆうぐを買う
ゆうぐを大切にしようのポスターを作る
あぶないあそびをすると、自分もけがする

キャッチコピー

選んだ良くないところ
原因

どうしたらいいか



なぜポイすてをするのか
ごみをすてるのが、めんどくさい
ちかくにごみ箱がない
まわりの人がしたら注意する
ごみ箱を設置する
ごみ箱のある場所をはあくする
ごみは、ゴミ箱にすてよう！

キャッチコピー

選んだ良くないところ

原因

解決方法



キャッチコピー

危ない所が おおい

用水路が多い(自転車、あるき、つまづく)

周りを見る

危ない所に張り紙をはる

段差が多いところは、気をつける

自分の身は、自分で守ろう

選んだ良くないところ

原因



キャッチコピー

公園がおもしろくない

遊具だけで遊ぼうとしている

遊ぶための道具を持参する

遊びを工夫して楽し公園にしよう！

選んだ良くないところ

原因



原因

解決方法

キャッチコピー

水害への対策

川が多い

川に囲まれているから、津波がきたら危ない

ひなんくんれんを多くする

いのちが なくなる前に・・・水害への対策

選んだ良くないところ

原因



解決方法

キャッチコピー

道などのポイ捨てが多い

ゴミ箱の場所がわからない

いしき して いない

ゴミ箱の場所を地図に表す

ポスターをはる

ゴミ箱を地図にしめして すてにいこう！

選んだ良くないところ

原因



解決方法

キャッチコピー

交通ルールを守らない人いること

自分が事故してしまうことが分かっていないから

自分で意識して行動する

安心安全な町、井田川



意見から抽出した課題

公園・遊び場の整備

学校施設の保全(プール清掃など)補助

環境・安全(まち歩き、危険個所の再点検)

行事・イベント(子供に夢と楽しさを)



マイタウン井田川まちづくり委員会

〒513-0008

鈴鹿市西富田町11番 鈴鹿市井田川公民館内

☎/Fax 059-390-0038

e-mail town_idagawa@mecha.ne.jp